

<コラム> 完成車の輸入

我が国の自動車産業の発展に伴い、完成車輸出量は1960年代より増加してきたが、日本車の現地生産が拡大するにつれ、1980年代半ばをピークに頭打ち傾向となっている。一方、最近では逆に欧米からの完成車輸入が伸びてきており、欧米自動車メーカーは日本法人を設立し、輸入拠点を建設、輸入車の整備や部品の供給を行っている。

輸入拠点には、完成車を一時保管するモータープールの他、新車整備場（PDI：Pre Delivery Inspection）部品センター等があり、我が国の基準に適應するための装備品の装着・点検・整備や、塗装や外板等について、全国の販売店に配送する前の最終的な検査・補修・仕上げが行われている。

我が国における2大マーケットである首都圏と関西圏のどちらにも近く、港から高速道路、新幹線へのアクセスが優れていることから、愛知県の三河港に輸入拠点を置く欧米自動車メーカーが多く、ここ数年、三河港は港別輸入車取扱量第1位の座を維持し続けている。



MBJ豊橋新車整備センター